

農技セ第6510号
平成28年7月4日

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成28年度技術情報について

平成28年度技術情報第3号を発表したので送付します。

平成28年度技術情報第3号

平成28年7月4日
徳島県

6月6半旬の巡回調査において、早期水稲、および普通期水稲におけるいもち病(葉いもち)の発生が平年に比べて多く、一部の圃場では急性型病斑も確認されました。

高松地方气象台が6月30日に発表した1か月予報では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少なく、気温も平年より高いと予想されており、イネいもち病の発生には抑制的な気象条件ではありますが、急性型病斑が確認された圃場では、今後、穂いもちや稲体のずり込みの発生が懸念されます。

現地においては発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：水稲(早期水稲および普通期水稲)

病虫害名：イネいもち病(早期水稲は「穂いもち」、普通期水稲は「葉いもち」)

1.発生地域 県下全域

2.発生時期 7月上旬～

3.発生状況

(1)早期水稲

6月27日から29日にかけて、早期水稲20圃場を巡回調査した結果、葉いもちの発生圃場率が40.0%、発病度が2.3で、過去10年間で最も発生が多く、特に、県東部沿岸地域で発生が多かった(図1)。また、一部の圃場では、急性型病斑も確認された。

(2)普通期水稲

6月27日から28日にかけて、普通期水稲30圃場を巡回調査した結果、葉いもちの発生圃場率が16.7%、発病度が1.2で、過去10年間で最も発生が多かった(図2)。

(3)高松地方气象台が6月30日に発表した1か月予報では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少なく見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

5. 病徴および発生条件

(1) 病徴



急性型病斑
 楕円形
 暗緑色～ネズミ色
 周囲不明瞭
 ※伝染力が強い



慢性型病斑
 紡錘形
 周縁部褐色
 中央部灰色



急性型病斑により生じた
 すり込み

(2) 発生条件

低温日照不足で、降雨が多く稲体が乾きにくい場合、感染・発病が多い。
 気温が19～25℃、葉の濡れ時間が8～11時間以上で感染しやすい。

6. 防除法等

- (1) 葉いもちの発生が多い場合は、特に急性型病斑が認められる圃場では、穂いもちに移行する可能性が高いので薬剤防除を行う。
- (2) 穂いもちの防除適期は、出穂直前および穂揃期である。農薬の使用基準を確認の上、粒剤の場合は、出穂10日前までに、液剤の場合は出穂直前までに薬剤防除を行う。
- (3) 普通期水稻において、苗箱施薬を処理していない圃場では、粒剤による防除に努める。
- (4) 窒素質肥料を過用しないこと。特に、出穂前後の窒素過多は穂いもちが発生しやすくなるので、穂肥、実肥の施用時期・量に注意する。
- (5) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

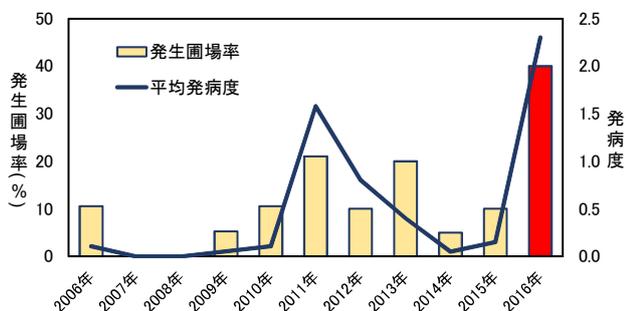


図1 6月6半旬における早期水稻のいもち病(葉いもち)発生推移

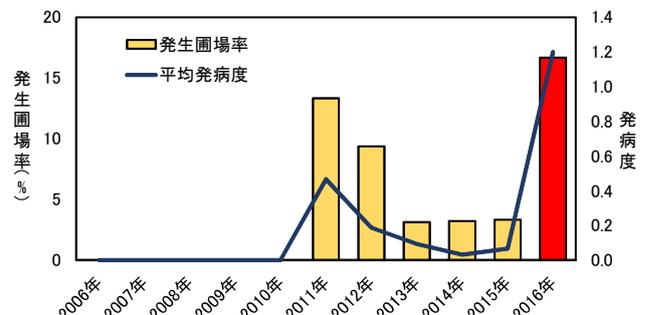


図2 6月6半旬における普通期水稻のいもち病(葉いもち)発生推移